

海運の重要性を学校教育の場で
～川崎マリエンで出前授業を実施～

当協会は、海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、海事施設等の見学会や出前授業、資料提供の実施等に取り組んでおります。

11 月 4 日（火）に、関東運輸局と協力し、世田谷区立砧南小学校 5 年生約 160 名を対象に午前と午後の 2 回に分かれ、川崎マリエンで出前授業を実施しましたので、その模様をお知らせします。

当日は、砧南小の社会科見学日であり、児童たちは川崎マリエンで海運や川崎港について学ぶとともに、東京ビッグサイトで Japan Mobility Show を見学しました。当協会は、関東運輸局と川崎マリエンでの出前授業を実施しました。

はじめに、関東運輸局から「うみの^{シー}Seaごと」と題して、日本の海の物流、色々な種類の船、造船、港湾等、海に関する仕事について網羅的に説明しました。大型コンテナ船に積載できるコンテナの数のクイズでは「100 個」「1000 個」「1 万～3 万個」等、たくさんの手が挙がりました（正解は 1 万個！）。

続いて、当協会の木村船長より、船員の生活・仕事について説明しました。船には個室や Wi-Fi が完備されており、バスケットコートやジムも設置されていることに「すごーい！！」との声が上がりました。また、船の食事について写真を見せると会場からは「うわー！！！」と大歓声が上がりました。その後、航海士・機関士の仕事について説明し、天候が悪化した時や満天の星空の写真等、海上職ならではの写真や実体験の話に、児童たちは夢中になっていました。日本人船員の数が少ない中、初めて見る船長に目を輝かせて話を聞いていた児童たちから、将来の船員がでてくれることを願っています。



出前授業の様子（午前）



出前授業の様子（午後）

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう、引き続き活動を展開してまいります。

以上